

口頭での自己表現力を伸ばす活動 --想像性を刺激し、創造性を引き出す ペア・ワークを中心に--

愛媛県立南宇和高等学校(愛媛)
向井 正一

1. はじめに

国際化が進むにつれて、英語の実践的コミュニケーション能力の養成はますます重要になっており、英語が話せるようになりたいという願望が強いにもかかわらず、話せない。なぜ話せないのだろうか？

英語力の不足(文法・語彙)。
コミュニケーション・ストラテジーの不足。
意欲(恥ずかしい等の情意面)。
話す内容が思い浮かばない。
聞き取れないので反応できない。
話す機会が少ない。

2. ペア・ワークのメリット

30 ~ 40 人というクラスサイズでの一斉授業では、口頭での自己表現力の育成の指導は難しい。そこで、できる限り英語を使って授業を行うなかで、ペア・ワークを多く取り入れている。

ペア・ワークの利点として、Ellis(1994:598 ~ 600)はLong and Porter (1985)の次の5点を引用している。

練習の機会の増加
生徒の会話の質の向上
個人指導の機会の増加
積極的な態度の雰囲気への促進
動機付け

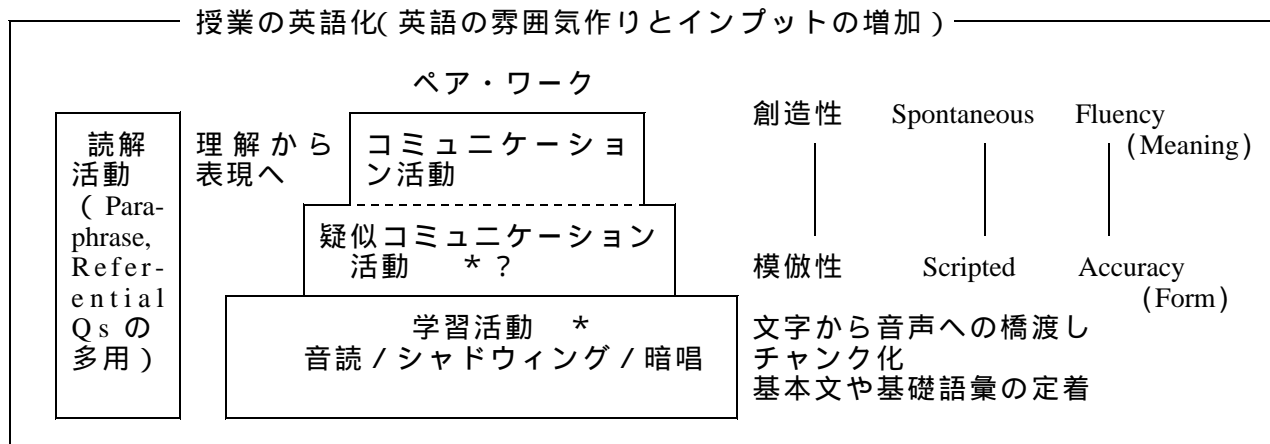
さらに Ellis は心理言語学的研究から、「第2言語習得を促進するようなインプットとアウトプットの機会の増加」の点で、小集団学習を評価している。さらに、一方通行ではなく「情報を交換することが必要なタスクが習得に効果的」であるとしている。

Nunan(2000 2nd: 51)は、「学習者がコミュニケーションを図ることに積極的に係わることによって外国語を話す学習が促進される。」と述べている。

以上をまとめると、情報差が存在することで意味のやり取りの必然性があり、かつ意味のやりとりがしたいと思うようなタスクが効果的であることになるだろう。

しかし、そのようなコミュニケーション活動に至る過程として、音読、シャドウイング、暗唱といった学習活動を基礎にして、擬似的コミュニケーション活動も行う必要がある。また、それぞれの活動にはそれ独自の効果があるはずであるので、そのねらいや目標をはっきりさせることが大切であると思う。様々な活動のバランスを取りながらも、従来の指導では手薄であったコミュニケーション活動に特に配慮していきたい。

下の図は、ペア・ワークを多用した授業でのペア・ワークの位置づけである。



* はインフォメーション・ギャップがないことを示す。 資料 ペア・ワークの例
ペア・ワークは、話す技能を伸ばすだけではなく、相手の話を聞くことによって、聴く力を伸ばし、読解教材の内容について話し合うことで、深い読み取りを促すことになり、さらに、書く力も流暢さの面で、転移も望める。

3. 想像性を刺激して創造性を引き出すペア・ワークの例

現実のコミュニケーションの場面（例えば、買い物）を反映したコミュニケーション活動は、実践的であるが、時には、空想の世界に遊び、発想を膨らませて、英語でコミュニケーションをする場を設けるのも楽しいのではないかと思われる。

以下、これまで試みた想像的活動のペア・ワークを例示する。【Sadow, 1984】

- (1) 対話文の後の展開を想像して、チャット（教科書を用いて）
Milestone は導入に対話文が用いられており、その展開を想像して自由に会話させる。
- (2) ストーリーを元に、発展させるロール・プレイ（教科書を用いて）
教科書のストーリーを劇化したり、ロール・プレイをさせる。
資料 Milestone English Reading, Lesson 7 "The Man on the Train"
- (3) 1 分間即興スピーチ
1 分ほどの準備の後、ペアで、1 分間スピーチ、1 分間質疑応答をする。
次のものを想像させて、スピーチをさせる。
My Ideal Country to Live in (Milestone English Reading, Lesson 1 "My Old Globe")
My Ideal Old Age (Milestone English Reading, Lesson 3 "The Population Explosion")
The Strangest Animal in the World (Milestone English Reading, Lesson 4 "The Platypus")
The Most Convenient Pet (同上)
My Ideal Job (Milestone English Reading, Lesson 6 "Internet Era")
教科書と特に関連のないテーマで、次のようなスピーチをする。
My Ideal Spouse, My Ideal Family, My Ideal University Life, My Ideal House
スピーチの中で、わざと事実と違う内容の文を言って相手にその文を指摘させる、ゲーム的な活動もさせる。
- (4) 一文ずつ、交互にストーリー・メイキング
教科書等の写真を見て物語を作る。例えば、子供の写真の場合、将来を想像して物語を創作させる。(Milestone English Reading, Lesson 11 "An Observation and an Explanation")
Once upon a time there lived A and B in C. A,B,C を適宜変え、あるいは適当なものを考えさせて作らせる。(A happy end, A sad end, A surprising end 等を指示することもある。)
- (5) 問題解決
盛大なパーティーを開くとして、いつ、どこで、誰を招待して、どんな料理やエンターテインメントにするか相談する。(Milestone English Reading, Rapid Reading 1 "Japan Time")
- (6) ロール・プレイ
マスコミに登場する芸能人を演じる人と、インタビューする人に分かれて会話する。例えば、キムタクと工藤静香。
宝くじで 100 万円当たって、ある国で豪勢な休暇を過ごしていることを、電話で友達に自慢する。
占い師と客という設定で、10 年後、20 年後を占う。
- (7) 仮定法過去の質問文を使って
The Internet TESL Journal (<http://www.aitech.ac.jp>) の ESL Conversation Questions より、
What if ...? の質問文を用いて会話する。If the whole world were listening, what would you say? If you were told that you were going to die tomorrow, what would you do today? 等

4. ペア・ワークを効率よく行うために

ペアを原則として、固定する。
先行を指定することが多いが、じゃんけんで決めることもある。
活動中は立って行い、活動が終わったペアから着席する。
一回のペア・ワークを 4 ~ 5 分までとし、ある程度集中力を持って取り組ませる。
いきなりペアではやりにくいと思われる場合は、授業者と生徒でやってみる。
例えば、スピーチやミニ・ディベートのように活動のフォーマットを決め、継続的に行う。一方では、活動に変化を持たせ、マンネリを防ぐよう努める。
ワークシート作りには手間がかかり、また読んでいるだけの活動になりがちであるので、ワークシートは使わず、トピックを与えるだけでペア・ワークさせる。
より多くの発話を促すため、準備時間に 3 文考えるようにと、文の数を指定する場合もある。
ペアの相手から聞き出した内容を全体にレポートする形を時々取ることによって、より多くの情報を相手から聞きだそうとし、ペア・ワークが活性化する。【中嶋洋一 2000:96 ~ 97】
生徒が興味を持って取り組めるようなトピックを考えるが、言語能力的に無理と思われる場合は、日本語で話し合わせて、テキストの深い読みとりを目指す。(また、概要を予習の段階で把握できているかをチェックするために、ペアで日本語で要約させたりもしている。)

5. スピーキングの評価

ティーム・ティーチングで、評価基準を設けて学期毎に話す力を評価した。

(1) 1 学期 童話の要約か創作の物語のスピーチ

あらかじめ、童話の要約か、創作の物語を書かせて、読ませた。

評価の基準 内容、声の大きさ

ALT には、質問や、コメントをしてもらった。

(2) 2 学期 ミニ・ディベート

A の立論、B の尋問、B の立論、A の尋問（それぞれ 1 分間）という形で、1 対 1 のディベートを行った。ALT と JET のデモンストレーションも含めて、2 時間かった。

論題の例 Cats vs. Dogs, Doraemon vs. Sazae-san, English vs. Math, Rice vs. Bread

Fan vs. Air-conditioner, Newspaper vs. TV, The country vs. City, Mickey vs. Doraemon

評価の基準 立論の内容、反駁の仕方

資料 Thought on Debate (ALT が授業後フィードバックとして作成してくれたプリント)

(3) 3 学期 1 分間即興スピーチ

次のようなテーマで、1 分程の準備の後、1 分間即興スピーチを行った。

My favorite pastime, My favorite food, My favorite music, My favorite subject, My favorite teacher, My favorite actor/actress, My favorite TV program, My favorite country, My favorite place, My type, My favorite sport, My favorite movie, My dream, 等

評価の基準 流暢さ（20 秒以上の沈黙がない）、声の大きさとアイコンタクト

資料 A few thoughts about Impromptu Speeches (ALT が授業後フィードバックとして作成してくれたプリント)

6. 生徒の反応

自由記述による授業の感想より（下線部は問題点）

初めは全神経を集中して英語を聞き取っていた。そのかいあってか、段々と耳が鍛えられ慣れてきた。

初めは常に英語を話していて驚いたが、今は完璧とはいえないまでも、だいたいの意味は取れるようになった。

次第に慣れて、最近は 7 ~ 8 割は聞き取れるようになった。

少しずつであるが、英語を聞き取ることができるようになった。この一年で、聞き取る力が一番付いた。

リスニングは「慣れ」が大切だということを身をもって感じた。

パートナーとの会話で英語を聞く力と表現する力がついた。トルシエの英語なら分かる程度に。

コミュニケーションを隣の人と取ったり、意見を述べたりすることが多く、楽しい雰囲気の中でできた。

自分の言いたい日本語を適切に英語に直す力がなかったのに、何度もやっているうちに、自然と英語を話せるようになったのでびっくりした。

ペアの人と会話をしたりして、英語で自分の考えを表現する力がついてきたと思うし、楽しかった。

色々なトピックで議論をして、自分の意見を述べる機会が多かったので、回を重ねるごとに一文が長くなって自分の考えをちゃんと覚えて、とても楽しかった。

英検の面接で、結構楽に言葉が出てきた。

時々、難しいテーマもあったが、ほとんどが身近なテーマだったので、割とスムーズに話し合いができた。

トピックによってはなかなかしゃべることが思いつかずに嫌なこともあったが、人に気持ちや意見を伝えるのには、語彙力だけではなく勢いも大切だと思った。

文法では間違っていると思うけど、自分の考えを英語でいったりして楽しかった。

言いたい単語が分からず苦労したが楽しかった。

ペアで話すのは、ついつい日本語が出ながらも、一生懸命話していると、時間があつという間に過ぎて、とても楽しかった。

今でも時々、思わず日本語が出て来るが、それもだいが減った。

1 分間スピーチは緊張して、よけい単語も思いだせず、大変だった。

難しい単語が分からないとき、もっと簡単な言葉で言い換えがスムーズにできるようになりたい。

会話は、まだまだ自分の言いたいことが表現できないが、これから、徐々に会話力を付けていきたい。

初めは英語ですっとなしゃべるのに戸惑いがあったが、英語を聞いたり話したりすることの大切さが分かった。

ディベートで、英語で自分の意見を述べるのは難しく、どうしても日本語が混じったが、それでも上達はしていった。

ディベートで相手が困るような質問が思い浮かばず苦労した。

ミニ・ディベートとかで、ちょっとは話せるようになった。
この一年で宿題をいっぱいやった分英語の力が伸びたが、一年やってきても英語のトークやディベートがうまくいかない。

文法や構文だけでなく、読解を深く進めていくのがよかった。

小説文では登場する人物の心情、説明文では作者の主張や文章の要約等の練習から、英文が記号の集まりから文章の集まりとみなせるようになった。

自由英作が多く、文通をしている元 ALT の先生に、英語が自然でわかりやすくなったといわれ、勉強してよかったと思った。

7. 今後の課題

英語でなんとか表現しようとする態度や自分の思いが英語でなんとか通じるという点では、一定の成果が見られたが、次のような点が課題として残された。

(1) ペア・ワークでの日本語使用

日本人同士での会話という制約から、改善されてきたとはいえ、日本語を使ってしまう面がある。別の表現で伝えるというコミュニケーション方略を身に付けさせるとともに、英語のプロダクション用の語彙を増やす方策も必要である。【Brown, 2001:180 ~ 181】

(2) 文法の誤り

文法の定着というよりは、自分の考えをなんとか伝えるというペア・ワークが多く、文法をさほど気にせず、とにかく伝えようとするあまり、文法のミスが多発し、化石化する危険がある。生徒の発話を一度にモニターできないので、生徒の文法等の誤りがチェックでき難いというペア・ワーク最大の弱点を克服するのは非常に難しい面があるが、モニター中に気づいた誤りを、必要に応じてフィードバックしていきたい。また、時には、文法に注意して話すように促すことも効果的と思われる。

(3) 英語らしくないリズムや発音

平板な調子で、一語ずつ区切って言い、特に語末に本来ない母音を加える傾向が顕著であるが、授業だけではこれを矯正するのは難しいと思われる。自習として、英語をシャワーのように浴びたり、リピートやシャドウイングを時間をかけて行う必要がある。

(4) より本物のコミュニケーションに近いタスクの設計

日本人同士という制約はあっても、より本物のコミュニケーションに近い状況を設定していきたい。Ozasa (1999) はインタラクティブな活動にするために、Real Situation, Genuine Message, Natural Discourse の 3 点を挙げている。また、Harmer (1991:49 ~ 50) は、コミュニケーション活動の要素として、A desire to communicate, A communicative purpose, Content not form, Variety of language, No teacher intervention, No materials control を挙げている。このような指摘を踏まえて、いわゆる学習活動とのバランスを取りながら、できるだけ本物のコミュニケーションに近い言語活動を仕組んでいきたいと思う。

(5) 異文化間コミュニケーションの手段としての英語

生徒同士の会話のため、異文化間の衝突や摩擦を回避したり、乗り越えたりする機会が乏しい。異文化間コミュニケーションの手段としての英語の指導という観点から授業を見直す必要がある。【吉田研作他 (1997:58 ~ 67)】

参考文献

- Brown, H. D. (2001, 2nd ed.) Teaching by Principles: An interactive Approach to Language Pedagogy (Addison Wesley Longman)
- Ellis, R. (1994) The Study of Second Language Acquisition (Oxford University Press)
- Harmer, J. (1991) The Practice of English Language Teaching (Longman)
- Littlewood, W. (1981) Communicative Language Teaching (Cambridge University Press)
- McDonough, J. and Shaw, C. (1993) Materials and Methods in ELT (Blackwell)
- 中嶋洋一 (2000) 学習集団をエンパワーする 30 の技 (明治図書)
- Nunan, D. (1989) Designing Tasks for the Communicative Classroom (Cambridge University Press)
- Nunan, D. (2000 2nd ed.) Language Teaching Methodology (Longman)
- Ozasa, T. (1999) Communication-oriented English Teaching (The Institute for Educational Leadership on the Teaching of English)
- Sadow, S.T. (1984) Speaking and listening: imaginative activities for the language class, In Rivers. W.M. (ed.) (Cambridge University Press)
- SLA 研究会 (1994) 第二言語習得研究に基づく最新の英語教育 (大修館書店)
- 吉田研作他 (1997) コミュニケーションとしての英語教育論 (アルク)

使用教科書

- REVISED Milestone English Course (啓林館)
- REVISED Milestone English Reading (啓林館)
- ONE WORLD English Course Writing (REVISED EDITION) (教育出版)

いわゆる言語活動（コミュニケーション活動）ではなく、単なる学習活動もあるが、以下これまでに試みたペア・ワークを例示する。【SLA 研究会 1994：247～248】。

インフォメーション／オピニオン／リーズニング・ギャップの有無を基準に、コミュニケーション言語活動ではない場合は＊で示す。【Nunan 1989:66】

Listening を L、Speaking を S、Reading を R、Writing を W と示す。また、生徒 A / 生徒 B で表示して、それぞれの中心となる活動を示す。

特に、創造性を要すると思われる活動を、 で示す。

ア 音読の場合

- (ア) テキストを 1 文ずつ交互に音読（＊ R / L）
個人読みよりも声を出して読み、読めない単語を教え合うことができる。
- (イ) シャドウイング（＊ R / L、S）
相手のためにしっかり読まねばという気持ちが生まれ、また、リピートする方もテープより速度が遅くやりやすい。
- (ウ) フレーズごとにリピート（＊ R / L、S）
読み手はどこで区切るかを考えながら読むので、フレーズに対する意識が育つ。さらに、読み手はフレーズごとに覚えて言うと、S の活動に近づく。
- (エ) フレーズごとに和訳（＊ R / L）
A は本文をフレーズごとに読み、B は、テキストを見ないで和訳する。
- (オ) 間違い探し（＊？ R / L）
文章の一文の中に一か所ずつ、わざと他の語に置き換えて音読し、相手はテキストを見ないでその箇所の正しい語を言う活動。クラス全体で、教師が出題し、答えられた生徒から座らせるような活動を何度かしてしてから取り組ませるとスムーズにいく。
また、わざと余分な語を入れて音読し、相手はその語を指摘する。
- (カ) 次の語は？（＊？ R / L）
A が教科書の本文を読み、途中で読むのを止め、B がその次の語が何かを言う。

イ 暗記を促進する場合

- (ア) 文の暗唱（＊ / S）
重要例文をいくつか覚えさせ、A は日本語を言って、B は英語を再生する。
- (イ) 文法練習（＊ R / L、S）
文法問題の答え合わせをした後、A は問題文を読み上げ、B は何も見ないで、文を転換したり、穴埋めをした完全な文を言ったりする。
- (ウ) 対話文での Look-up-and-say の活動（＊ S / L）
対話文の練習では、単に文を読み上げるのではなく、文を覚えて、相手を見て言う。

ウ 理解から表現へつなげる場合

- (ア) 英問英答（＊？ R / S / L、S）
テキストの内容について英問を作らせるのはやや高度な活動で、文法等の誤りもチェックできにくいので試みることは少なかったが、内容を重視して取り組むことに意義があると考え、よく取り入れるようになった。
オーラル・コミュニケーション B の聞き取りのタスクの後、全体ですぐ答え合わせをしないで、ペアで英語で確認し合うようにする。英問英答なら、そのまま質問でき、T・F は Yes/No の疑問文に言い換えるだけでよい。
- (イ) テキストを英語で要約（＊？ R / S / L）
キーワードを板書し、それを使ってテキストを見ないで英語で要約をさせる。英文の難易度に応じて、キーワードを一切与えない場合もある。また、教科書の絵だけを見て、話を再生させたりする（例えば、Milestone English Reading, Rapid Reading 1）。
- (ウ) 聞き取りをして英語で要約（＊？ L、W / S / L）
易しい文章をメモを取りながら聞かせ、英文で要約させ、それを相手に聞かせる。
- (エ) テキストについて自分の感想や意見を述べる（R / S / L）
評論文では筆者の意見に賛成か反対か、またその理由を考えさせたり、物語文では、登場人物の心情を考えさせたりやその後を想像させたりする。
じっくり考えさせたいときは、ノートにあらかじめ書かせてから、ペアで発表し合う。例えば、Milestone English Reading の COMPREHENSION C 3 は自分の意見を日本語で述べる設問になっているが、英語で書かせるようにしている。例えば、「世界の国々が共同でできる人口対策について、あなたの考えを述べなさい。」（じっくり考えたり、文法やディスコースに注意させる点では、ライティングの活動は、スピーキングの基礎力を養成するのに役立つ。評価もスピーキングよりやりやすい。また、Timed writing の形にすることで、書く速さも伸ばすことができる。）

エ タスクを課す場合

(ア) 文法事項を対話文の中で練習する (S、L / L、S)

本時の文法事項や重要表現を対話文に盛り込み、練習させる。できるだけ open-ended の質問を含めるようにする。先行詞を含む関係代名詞 what の場合：

A: What do you want to buy/eat/learn?

B: Let me see. What I want to buy is/are ~ .

A: Why do you want to buy/eat/learn it/them?

B: Well, because ~ .

A: Oh, I see. /Really? etc.

対話文を作ることが難しい場合は、文法項目や重要表現を含む文を自由に作らせて、ペアで発表し合う。

(イ) チャット (S、L / L、S)

ウォーム・アップとして、簡単な会話をペアで試みる。例えば、"What did you do yesterday?" "What are you going to do next Sunday?" "How did you enjoy the sports day?" 等。

(ロ) 推測ゲーム (S / L)

実物、単語、日本の事物等を A の生徒にのみ示し、英語でそれについて描写させ、B はそれが何かを当てる。

(リ) 推測ゲーム (S、L / S、L)

A の生徒が、例えばある動物を頭に描き、B がそれが何かを質問して当てる。fruit, country, singer, movie star, subject, color 等のカテゴリーで試みた。

(ハ) 絵の描写 (S / L)

教科書等の絵を用いて、その絵について描写させる。その絵についてのコメントもつけさせる。英検の 2 次対策に効果的である。

(ニ) ロール・プレイ (S、L / L、S)

One World Writing の Part 3 では、忠告の表し方、提案の表し方等言語の機能別に Lesson が構成されているので、A は医者、B はタバコがやめられない患者といった状況設定をして、ロール・プレイをさせた。

(ホ) スピーチ (W S、L / L、S)

スピーチを書かせても、全員に発表させるのは時間がかかる。そこで、ペアでスピーチをしてから、原稿を交換し、相手への質問文を考えて、口頭で質問し合う。その後、数名に発表させる。

また、My Favorite Subject のようなテーマを与えて、1 分間の準備のあと、ペアで 1 分間スピーチ、1 分間質疑応答をする。

(ヘ) ミニ・ディベート (S、L / L、S)

A の立論、B の尋問、B の立論、A の尋問 (それぞれ 1 分間) という形で行う。ノートに書かせる場合は、(カ) の手順と同じ。テーマは、Train vs. Airplane、Traveling alone vs. Traveling in a group、Reading books vs. Playing video games、Hokkaido vs. Okinawa、Studying in class vs. Studying alone、Curry and rice vs. Udon、Staying single vs. Getting married、Going to college after high school vs. Working after high school、Having no children vs. Having two children、Arranged marriage vs. Love marriage、Oyaji vs. Obatarian、Sumo vs. Baseball、" Should entrance exams be abolished?"、"Is Doraemon good for Nobita?" 等を試みた。